［巻頭特集］

インターハイ初出場！
桑名工業高等学校ハンドボール部

声援を胸に、全国の舞台へ

迫力あるプレーや、攻守の素早い切り替えが魅力のハンドボール。今年夏、桑名工業高等学校ハンドボール部は、創部以来初となるインターハイ出場を成し遂げた。全国の舞台では、惜しくも1回戦負けと涙をのんだが、「全国で1勝」を目標に、2年生が中心の新チームが始動している。

激しい攻防と華麗なシュートが魅力

「キュッキュッ」と、シューズと床が擦れ合う音の響く体育館。巧みなボールさばきで相手を翻弄し、空中から放たれたシュートは、あっという間にゴールに吸い込まれていく。シュートの速さは、時速100キロを超えるときもあるという。正面からの接触プレーが許されており、激しい攻防に思わず息をのむ。

「走って、飛んで、投げて、ぶつかって、と全身を使うスポーツ。腕力やジャンプ力のほか、接触に耐えられる身体バランスも必要です」と、桑名工業高校ハンドボール部顧問の長谷川将規先生は話す。

4年前、顧問に就任。当時の部員は十数人ほどで、県大会に出場しても2回戦で敗退するほどの実力だった。長谷川先生は、市外の中学校を訪ねるなど、チームづくりに着手。「鈴鹿や四日市が盛んな一方で、桑名市内の中学校には、ハンドボール部がありません。まずは経験者をチームに増やそうと、『一緒に全国を目指そう！』と声をかけていきました」。

「歴史を変えよう」を合言葉に全国の舞台を目指して

部活では、経験者と初心者がともにコートで汗を流す。上手くなろうと懸命に練習する初心者の姿が経験者に好影響を与え、互いに切磋琢磨するのが部の持ち味だ。「技術が高くなくても、得意不得意を仲間でカバーし合えば、得点を重ねていくことができる。高校からの初心者が多いので、基本練習を丁寧に繰り返してきました。特別なメニューがあるわけではないんです」と、副顧問の砂川匠先生は部員を見つめる。

転機となったのは昨年の全国高等学校総合体育大会三重県予選。地元・三重県でのインターハイとあって開催地枠が設けられ、2校が全国出場できる特別な年だった。優勝は、11年連続（当時）57回目の全国出場となった四日市工業高校。桑名工業高校は惜しくも3位に終わった。

全国まであと一歩の結果だった。当時2年生（現3年生）の部員は、「歴史を変えよう！」を合言葉に全国出場を胸に誓ったという。

敗退から2カ月、インターハイがスタート。部員は、モップがけなどで大会をサポートしながら試合を見守った。「選手としてコートに立てなかったことが、闘志に火をつけたのでしょう。『勝ちたい、強くなりたい』との思いが一層強くなり、顧問の指示がなくても、自らすすんで動けるようになった」と長谷川先生は振り返る。

同年12月に全国高等学校ハンドボール選抜大会三重県予選が開幕。部は準優勝を果たし、優勝校・四日市工業高校とともに、東海大会へと駒を進めた。全国大会への切符が目前に迫った、四日市工業高校との3位決定戦。「延長の末、試合には負けてしまったが強豪に競り合えたことが部員の自信につながった」。

全国への目標を掲げて1年、全国高等学校総合体育大会三重県予選の決勝で、再び四日市工業高校と対戦。20対19で見事勝利をおさめ、部初となる全国出場を成し遂げた。

インターハイの結果は1回戦負けと、全国の壁の厚さを思い知った。「県大会と全く違う雰囲気でした。緊張してしまい、持ち味が生かせなかった」と振り返るのは、キャプテンの勢力大地さん。「新チームは、ボール展開が早い。自分たちが届かなかった全国選抜に出場してほしい」と後輩たちにバトンをつなぐ。

学校行事の運営にも注力 周囲の応援を原動力に

「謙虚・感謝」と「学校への貢献」をモットーに、部員たちは日々練習に打ち込む。活動は、週5、6日。「遠方から通う部員もいますので、始業前の練習はありません。朝練を理由に学業に支障があっては、学校への貢献はできませんから」。土日は、他校との練習試合も実施。合宿では、部員同士の活発な交流を促し、チームプレーに重要となるコミュニケーションを育んでいる。

部活の傍ら、学校行事の運営にも率先して参加。卒業式や入学式では、ハンドボール部が中心となって、会場設営や後片付けを担う。

日頃の行いの賜物だろう。インターハイ初出場が決まったとき、部のもとには喜びの声が多く寄せられた。「学校内外のたくさんの方から『本当に良かったね』と声をかけてもらった。応援してくれる人がいるからこそ、もっと頑張れる。部員には応援してもらえる存在になってほしい」と、長谷川先生は部員に目を向ける。

男子は32年ぶり、女子は44年ぶりのオリンピック出場が決定し、注目が集まっているハンドボール。「他のスポーツに比べてまだまだマイナーな競技。まずは興味を持ってもらえたら。いずれかは体験の機会を提供するなどして、競技人口を増やす仕掛けをつくりたい。ハンドボールに興味をもってもらって『高校からでも一緒にやりたいな』と思ってくれる人がひとりでも増えてくれるといいですね」と長谷川先生は夢を膨らませる。

ハンドボールは1チーム7人制。ゴールキーパー1人と、コートプレーヤー6人から成る。相手ゴールにシュートして得点を重ね、試合時間内に多く得点したチームの勝ちとなる

桑名工業高等学校ハンドボール部顧問の長谷川将規先生（右）、副顧問の砂川匠先生。「全国大会で勝つことが新チームの目標。現在は、年末の全国選抜大会県予選に向けて練習しています」と長谷川先生

桑名工業高等学校ハンドボール部キャプテンの勢力大地さん（3年生）（右）、新キャプテンの福本絃葵さん（2年生）。「部員にすすんで声かけできるようなキャプテンになりたい」と福本さん

文／新井のぞみ　写真／D-studio　デザイン／Beanstalk